

3454-10

デジタルメグオームハイテスタ（絶縁抵抗計）

取扱説明書

2012年1月 改訂10版 Printed in Japan
3454C980-10 12-01H



HIOKI

日置電機株式会社

本社 TEL 0268-28-0555 FAX 0268-28-0559
〒386-1192 長野県上田市小泉 81

URL <http://www.hioki.co.jp/>

■ お問い合わせは、コールセンター（本社販売企画課）まで

☎ 0120-72-0560

(9:00～12:00,13:00～17:00、土・日・祝日を除く)
TEL 0268-28-0560 FAX 0268-28-0569 E-mail info@hioki.co.jp
最寄りの営業所については弊社ホームページをご覧ください

仕様	
■一般仕様	
表示	液晶、最大 4000
サンプルレート	2 回/秒
応答時間	絶縁抵抗（∞→0、∞→中央表示値）、抵抗 5 秒以下、ACV 2 秒以下
使用温湿度範囲	0～40℃、90%rh 以下（結露なきこと）
保存温湿度範囲	−20～50℃、90%rh 以下（結露なきこと）
使用場所	屋内、高度 2000 m 以下
温度特性（0～18℃、測定精度に±2%rdg.±5dgt.を加算（抵抗測定4MΩレンジは±5%rdg.を加算（28～40℃）	
IP 保護等級	IP40（テストリードを接続した状態）
電源	定格電源電圧 DC1.5 V × 4（単 3 形マンガン乾電池（R6P）× 4 または単 3 形アルカリ乾電池（LR6）× 4）
最大定格電力	3 VA
連続使用時間（マンガン電池）	絶縁抵抗∞測定 50 V 約 24 時間、125 V、250 V 約 20 時間、500 V 約 10 時間
測定可能回数（絶縁抵抗、5 秒 ON 25 秒 OFF）	50 V マンガン電池 1500 回アルカリ電池 5000 回（0.1 MΩ 測定）125 V マンガン電池 700 回アルカリ電池 2400 回（0.125 MΩ 測定）250 V マンガン電池 600 回アルカリ電池 2200 回（0.25 MΩ 測定）500 V マンガン電池 400 回アルカリ電池 2000 回（0.5 MΩ 測定）
付属機能	オートパワーセーブ、コンパレータ、電圧発生警告表示、活線警告表示、データホールド、表示部照明、500 V 誤発生防止、ゼロアジャスト
耐電圧	AC5550 V 50/60 Hz 1 分間 電気回路と筐体間
最大入力電圧・対地間最大定格電圧	AC600 V
外部印加電圧保護（過電圧保護）	AC600 V 10 秒間（交流電圧ファンクションは AC800 V）
寸法	約 175W × 148H × 56D mm（突起物含まず）
質量	約 530 g（電池を含む）
付属品	L9787 テストリード、取扱説明書、または使用による故障 <p>単 3 形マンガン乾電池（R6P）4 本、ストラップ</p>
オプション	L9787-91 プレーカピン、9804-02 マグネットアダプタ、L9787 テストリード
適合規格	安全性 EN61010、汚染度 2、測定カテゴリⅢ（予想される過渡過電圧 6000 V） <p>EMC EN61326</p> <p>絶縁抵抗計 JIS C 1302-2002</p>

rdg.: 読み値（現在測定中の値、測定器が現在指示している値を表します）

dgt.: 分解能（最小表示単位、最小桁の "1" を表します）

■絶縁抵抗測定

測定原理 直流電圧印加・漏れ電流検出

定格測定電圧（直流）	有効最大表示値	中央表示値
50 V / 125 V	200 MΩ	5 MΩ
250 V / 500 V	2000 MΩ	50 MΩ

定格測定電圧	表示レンジ（オートレンジ）	最大表示値	分解能
50 V / 125 V / 250 V / 500 V	4 MΩ レンジ	4.000 MΩ	0.001 MΩ
	40 MΩ レンジ	40.00 MΩ	0.01 MΩ
50 V / 125 V	200 MΩ レンジ	200.0 MΩ	0.1 MΩ
	400 MΩ レンジ	400.0 MΩ	0.1 MΩ
250 V / 500 V	2000 MΩ レンジ	2000 MΩ	1 MΩ*

*:1000 MΩ 以上を表示する場合は最下位桁 0 固定で分解能 10 MΩ

有効測定範囲・精度（精度保証温湿度範囲 23 ± 5℃ 90%rh 以下で 1 年間保証）

定格測定電圧	測定範囲の名称	測定範囲	精度
50 V / 125 V	第 1 有効測定範囲	0.200～10.00 MΩ	± 3%rdg. ± 4dgt.
	第 2 有効測定範囲	10.01～200.0 MΩ	± 5%rdg. ± 5dgt.
	その他の測定範囲	0～0.199 MΩ	
250 V / 500 V	第 1 有効測定範囲	0.200～100.0 MΩ	± 3%rdg. ± 4dgt.
	第 2 有効測定範囲	100.1～2000 MΩ	± 5%rdg. ± 5dgt.
	その他の測定範囲	0～0.199 MΩ	

定格測定電圧	開放回路電圧の許容範囲	定格測定電圧を維持できる下限測定抵抗値	定格測定電流	短絡電流
50 V	定格測定電圧の 1～1.2 倍	0.1 MΩ	0.5～0.6 mA	1.2mA 以下
125 V		0.125 MΩ		
250 V		0.25 MΩ		
500 V		0.5 MΩ		

放射性無線周波電磁界の影響：3 V/m にて +10%rdg. 以内

■抵抗測定

表示レンジ（オートレンジ）	最大表示値	分解能	精度（ゼロアジャスト後）
40 Ω レンジ	40.00 Ω	0.01 Ω	± 3%rdg. ± 6dgt.
400 Ω レンジ	400.0 Ω	0.1 Ω	
4 k Ω レンジ	4.000 kΩ	0.001 kΩ	
40 k Ω レンジ	40.00 kΩ	0.01 kΩ	
400 k Ω レンジ	400.0 kΩ	0.1 kΩ	± 5%rdg. ± 6dgt.
4 MΩ レンジ	4.000 MΩ	0.001 MΩ	

短絡電流：200 mA 以上、開放端子電圧：DC5 V ± 1 V

■交流電圧測定

表示レンジ構成・精度（精度保証温湿度範囲 23 ± 5℃ 90%rh 以下で 1 年間保証）

表示レンジ	最大表示値	分解能	精度（精度保証は 600V 以下）
600 V レンジ	750V	1 V	± 3%rdg. ± 6dgt.

入力抵抗：100 kΩ 以上、周波数範囲：50/60 Hz

安全について

▲危険

この機器は IEC 61010 安全規格に従って、設計され、試験し、安全な状態で出荷されています。測定方法を間違えると人身事故や機器の故障につながる可能性があります。また、本器をこの取扱説明書の記載以外の方法で使用した場合は、本器が備えている安全確保のための機能が損なわれる可能性があります。取扱説明書を熟読し、十分に内容を理解してから操作してください。万一事故があっても、弊社製品が原因である場合以外は責任を負いかねます。

測定カテゴリについて

本器は CATⅢ に適合しています。測定器を安全に使用するため、IEC61010 では測定カテゴリとして、使用する場所により安全レベルの基準を CATⅡ～CATⅣ で分類しています。

CATⅡ: コンセントに接続する電源コード付き機器（可搬形工具・家庭用電気製品など）の一次側電路
コンセント差込口を直接測定する場合は CATⅡ です。

CATⅢ: 直接分電盤から電気を取り込む機器（固定設備）の一次側および分電盤からコンセントまでの電路

CATⅣ: 建造物への引込み電路、引込み口から電力量メータおよび一次過電流保護装置（分電盤）までの電路

カテゴリの数値の小さいクラスの測定器で、数値の大きいクラスに該当する場所を測定すると重大な事故につながる恐れがありますので、絶対に避けてください。カテゴリのない測定器で、CATⅡ～CATⅣの測定カテゴリを測定すると重大な事故につながる恐れがありますので、絶対に避けてください。

安全記号

この取扱説明書には本器を安全に操作し、安全な状態に保つのに要する情報や注意事項が記載されています。本器を使用する前に次の安全に関する事項をよくお読みください。

	使用者は、取扱説明書内の マークのあるところは、必ず読み注意する必要があります。使用者は、機器上に表示されている マークのところについて、取扱説明書の マークの該当箇所を参照し、機器の操作をしてください。
	この端子には、危険な電圧がかかることを示します。
	二重絶縁または強化絶縁で保護されている機器を示します。
	交流（AC）を示します。
	直流（DC）を示します。

取扱説明書の注意事項には、重要度に応じて次の表記がされています。

▲危険 操作や取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷につながる危険性が極めて高いことを意味します。

▲警告 操作や取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷につながる可能性があることを意味します。

▲注意 操作や取り扱いを誤ると、使用者が傷害を負う場合、または機器を損傷する可能性があることを意味します。

注記 製品性能および操作上でのアドバイスを意味します。

使用上の注意

本器を安全にご使用いただくために、また機能を十二分に活用いただくために、次の注意事項をお守りください。

▲危険

感電事故を防ぐため、次のことをお守りください。

- テストリードと本器との着脱は、テストリードを被測定物から外し、ファンクションスイッチを OFF にしてから行ってください。
- 測定前に必ずファンクションスイッチの位置を確認してください。ファンクションスイッチを切り替えるときは、テストリードを被測定物から外してください。

▲警告

- 腐食性ガスや爆発性ガスが発生する場所では使用しないでください。本器の破損もしくは爆発事故を誘発する可能性があります。
- 本器をぬらしたり、ぬれた手で測定しないでください。感電事故の原因になります。
- 本器や被測定物の破損または感電事故の原因となりますので、電池以外の電源は使用しないでください。
- テストリードの被覆が破れたり、ケーブル内部から白または赤色部分（絶縁層）が露出していないか確認してください。ケーブル内部の色が露出している場合は、使用しないでください。損傷がある場合は、感電事故になるので、指定の L9787 と交換してください。

▲注意

- 本器の保護機能が破損している場合は、使用できないように廃棄するか、知らないで動作させることのないように、表示しておいてください。
- この機器は室内用に設計されています。安全性を損なわないで 0℃～40℃ の温度まで使用できます。
- 直射日光や高温、多湿、結露するような環境下での、保存や使用はしないでください。変形、絶縁劣化を起こし、仕様を満足しなくなります。
- 安全のため、テストリードは付属の L9787（またはオプション）を使用してください。
- 本器の損傷を防ぐため、運搬および取り扱いの際は振動、衝撃を避けてください。特に、落下などによる衝撃に注意してください。
- 本器の調整や修理は、危険を良く知った技能者の責任で行ってください。
- 感電事故を防ぐため、ケーブル内部から白または赤色部分（絶縁層）が露出していないか確認してください。ケーブル内部の色が露出している場合は、使用しないでください。
- テストリードの先端金属ピンには、取り外し可能なキャップが装着されています。短絡事故を防ぐため、測定カテゴリ CATⅢ で測定するときは、必ずキャップをつけて使用してください。CATⅠ と CATⅡ で測定するときは、キャップを外して使用できます。測定カテゴリについては、取扱説明書の「測定カテゴリについて」を参照してください。

注記

- 使用後はファンクションスイッチを OFF にしてください。オートパワーセーブではわずかな電池消費があります。
- テストリードのプラグには、保護キャップがついています。本体に接続する前にこのキャップを外してください。

電池およびヒューズの交換方法

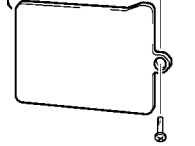
▲警告

- 感電事故を避けるため、ファンクションスイッチを OFF にしテストリードを被測定物より外してからケースを開け、電池・ヒューズを交換してください。
- 交換後は、必ず電池カバーをしてネジを留めてから、使用してください。
- 電池交換するときは、新旧および異種の混合はしないでください。また、極性十ーに注意し、逆挿入しないでください。性能劣化や液漏れの原因になります。
- 電池をショート、充電、分解、または火中への投入はしないでください。破裂する恐れがあり危険です。
- 電池は地域で定められた規則に従って処分してください。
- ヒューズは、指定された形状と特性、定格電流、電圧のものを使用してください。指定以外のヒューズを用いたりヒューズホルダを短絡して使用すると、人身事故になるので注意してください。指定ヒューズ：7012540,SIBA 社製、超速動型（FF）, 定格 0.5 A/700 VAC

注記

- 電池の液漏れによる腐食を防ぐため、長い間使用しないときは、電池を抜いて保管してください。

- ファンクションスイッチを OFF にし、安全のためテストリードを本器から外します。
- 本体裏側中央部の留めネジをゆるめ、電池カバーを外します。
- 電池 4 本を全部またはヒューズを交換します。
- 電池カバーを取り付け、ネジ留めます。



はじめに

このたびは、HIOKI 3454-10 デジタルメグオームハイテスタをご選定いただき、誠にありがとうございます。この製品を十分にご利用いただき、末長くご使用いただくためにも、取扱説明書はていねいに扱い、いつもお手元に置いてご使用ください。

点検

本器がお手元に届きましたら、輸送中において異常または破損がないか点検してからご使用ください。特に付属品および、パネル面のスイッチ、端子類に注意してください。万一、破損あるいは仕様どおり動作しない場合は、お買上店（代理店）が最寄りの営業所にご連絡ください。

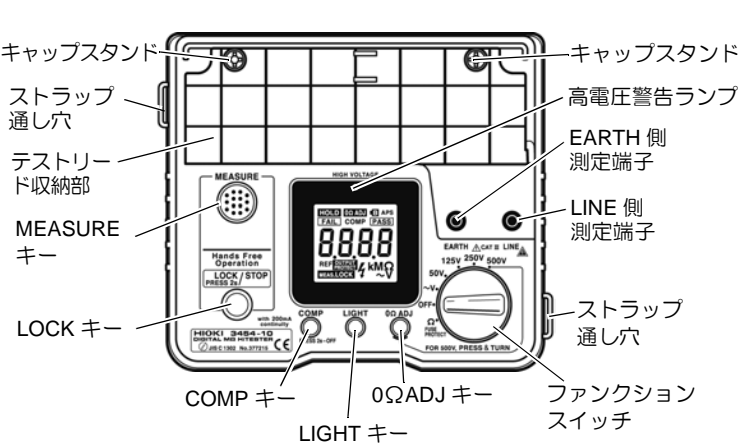
使用前の確認

- 使用前には、保存や輸送による故障がないか、点検と動作確認をしてから使用してください。故障を確認した場合は、お買上店(代理店)が最寄りの営業所にご連絡ください。
- テストリードの被覆が破れたり、ケーブル内部から白または赤色部分（絶縁層）が露出していないか確認してください。ケーブル内部の色が露出している場合は、使用しないでください。損傷がある場合は、感電事故になるので、指定の L9787 と交換してください。

保守・サービス

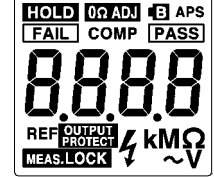
- 本器の汚れをとるときは、柔らかい布に水か中性洗剤を少量含ませて、軽く拭いてください。ベンジン、アルコール、アセトン、エーテル、ケトン、シンナー、ガソリン系を含む洗剤は絶対に使用しないでください。変形変色することがあります。
- 故障と思われるときは、電池の消耗、テストリード、ヒューズの断線を確認してから、お買上店（代理店）が最寄りの営業所にご連絡ください。輸送中に破損しないように梱包し、故障内容も書き添えてください。輸送中の破損については保証しかねます。
- Err.9 が表示される場合は、修理が必要です。

各部の名称と機能



- ファンクションスイッチ
電源の ON / OFF、MΩ の発生電圧、ACV、Ω を切り替えます。
- MEASURE キー
絶縁抵抗測定、抵抗測定で使います。押ししている時だけ ON です。
- LOCK キー
絶縁抵抗測定、抵抗測定で使います。2 秒以上押しつづけると ON です。ON 状態で押すと OFF です。
- COMP キー
コンパレータ機能で使います。
- LIGHT キー
表示部照明の点灯 / 消灯を切り替えます。点灯後約 30 秒で自動消灯します。
- 0ΩADJ キー
・抵抗測定のゼロ Ω アジャスト機能で使います。
・絶縁抵抗の 500V を選択するときに使います。
・コンパレータ機能でブザー音の切り替えに使用します。
- 高電圧警告ランプ
絶縁抵抗測定時と AC70 V (± 10 V) 以上の電圧入力時に点滅します。
- EARTH 側測定端子
黒のテストリードを接続します。
- LINE 側測定端子
赤のテストリードを接続します。
- ストラップ通し穴
ストラップを通します。
- テストリード収納部
テストリードを収納します。使用後はテストリードを測定端子から抜かずに収納できます。
- キャップスタンド
テストリード先端から外したキャップを差し込みます。

表示部



- FAIL**：コンパレータ機能で絶縁抵抗測定時に測定値<基準値のとき点灯、抵抗測定時に測定値>基準値のときに点灯
- PASS**：コンパレータ機能で絶縁抵抗測定時に測定値≥基準値のとき点灯、抵抗測定時に測定値≤基準値のときに点灯
- REF**：コンパレータ機能で基準値を表示したときに点灯

OUTPUT PROTECT：0ΩADJ キーを押さずに 500 V を選択した場合に点灯

MEAS. LOCK：絶縁抵抗、抵抗を連続測定する場合に点灯

⚡：絶縁抵抗測定時に点灯、AC70 V (± 10 V) 以上の電圧入力時に点滅

OF：オーバーフロー表示　測定値が有効最大表示値を超えた場合に表示

測定方法

測定前の点検

テストリードが断線していないか確認する

- ファンクションスイッチを Ω にセットする。
- テストリードの先端を短絡する。
- MEASURE** キーを押し、表示が 1Ω 以下であることを確認する。

●絶縁抵抗測定

■OF: オーバーフロー表示 (Overflow)
測定値が各ファンクションの有効最大表示値よりも大きい場合に表示され、アナログ式絶縁抵抗計の「∞」に相当します。

【測定例】500 V ファンクションで表示が**OF**になる場合、測定値が 2000 MΩ

より大きいことを意味します。テストリードに何も接続しない状態でも**OF**が表示されます。

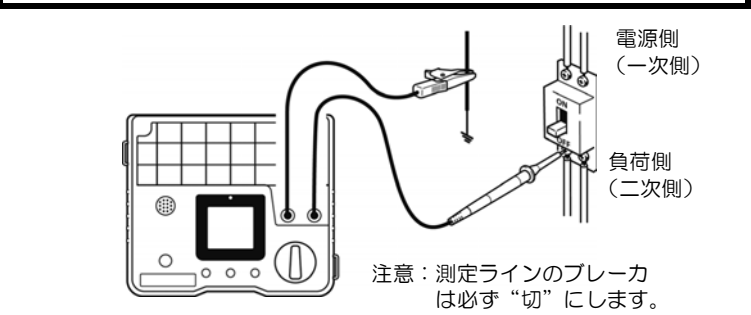
表示	ファンクション	有効最大表示値
OF	50 V	200 MΩ
	125 V	2000 MΩ
	250 V	
	500 V	

⚠危険

感電事故を防ぐため、測定前に必ずファンクションスイッチの位置を確認してください。

⚠警告

- 絶縁抵抗の測定中は、測定端子に危険な電圧が発生しています。感電事故を避けるため、テストリードに触れないでください。
- 測定後すぐに被測定物にさわらないでください。高電圧に充電された電荷で感電事故を起こす可能性があります。（「放電機能」参照）
- 測定後は本器の放電機能により被測定物の電荷を放電させてください。
- 活線状態で絶縁抵抗測定しないでください。本器を破損し、人身事故になります。また被測定物の電源を切ってから使用してください。



測定準備

- ファンクションスイッチを 50 V、125 V、250 V、500 V のいずれかの位置にします。500 V を選択するときには **0ΩADJ** キーを押しながらファンクションスイッチを 500 V にします。OFF の位置から 500 V を選択する時は、表示が現れるまで **0ΩADJ** キーを押し続けてください。**0ΩADJ** キーを押さずに 500 V を選択すると表示部に **OUTPUT PROTECT** が点灯します。この場合 **MEASURE** キーや **LOCK** キーを押しても 500 V は発生しません。
- E** マークが点灯していないことを確認してください。点灯している場合は電池を交換してください。
- 黒のテストリードを本器のアース側測定端子に、赤のテストリードを本器のライン側測定端子に接続します。
- 黒のテストリードを被測定物の接地側に接続します。接地一被測定物間の絶縁抵抗を調べる場合でなければ黒のテストリードは任意の箇所へ接続します。
- 赤のテストリードを被測定物に接続します。

キーを押しているときだけ測定する方法

□開始

- MEASURE** キーを押します。高電圧警告 LED が点滅し、表示部に **⚡** マークが点灯します。
- 表示が安定してから値を読みます。

□終了

- MEASURE** キーから指を離すと測定が終了します。自動的に表示値がホールドされます。
- 被測定物の放電が必要な場合は「放電機能」の説明に従い放電してください。

キーを押していなくても測定をする方法（連続測定）

□開始

- LOCK** キーを 2 秒以上押します。高電圧警告ランプが点滅し、表示部に **⚡** マークと **MEAS. LOCK** が表示されます。この場合**LOCK**キーや**MEASURE**キーを押していなくても測定を続けます。
- 表示が安定してから値を読みます。

□終了（**MEAS. LOCK** 点灯時の終了方法）

- LOCK** (STOP) キーか **MEASURE** キーを押すと測定が終了します。自動的に表示値がホールドされます。
- 被測定物の放電が必要な場合は「放電機能」の説明に従い放電してください。

注記

- 測定していない状態でも、テストリードを接続した被測定物が活線状態の場合、高電圧警告ランプと表示部の **⚡** マークが点滅します。
- 絶縁抵抗はもともと不安定なものです。被測定物によっては表示値が安定しない場合がありますが、故障ではありません。

- 被測定物に容量成分が含まれる場合、測定を開始した直後は、実際の抵抗値より小さい値を表示し、その後徐々に表示値が大きくなり実際の抵抗を表示します。
- 測定中にファンクションスイッチを回すと、測定を中止します。
- テストリードの先端を短絡させて測定しても **OF** を表示する場合は、テストリードの断線が考えられます。
- 高電圧警告ランプの消灯を確認してから、抵抗ファンクションまたは OFF ファンクションにしてください。
- 被測定物によっては測定値が安定するまでに時間がかかります。（5 秒程度）

放電機能

容量成分をもった絶縁抵抗を測定しますと、この容量成分には定格測定電圧に相当する電荷が充電されたままになり感電事故の可能性あります。ファンクションスイッチを測定後は以下の手順で放電させてください。

- テストリードを 2 本とも被測定物から離さずに測定を終了します。
- 本器内部の放電回路により被測定物に残った電荷を自動的に放電します。
- 放電中は高電圧警告ランプと **⚡** マークが点滅し電圧が約 30 V 以下になると消えます。
- 放電時間は容量の大小によって異なります。

●交流電圧測定

⚠危険

- テストリードは、必ずブレーカの二次側に接続してください。ブレーカの二次側は、万ー短絡があっても、ブレーカにて保護します。一次側は、電流量が大きく、万ー短絡事故が発生した場合、損傷が大きくなるので、測定しないでください。
- 最大入力電圧は AC600 V です。この最大入力電圧を超えると本器を破損し、人身事故になるので測定しないでください。
- 感電事故を防ぐため、テストリードの先端で電圧のかかっているラインを短絡しないでください。

- ファンクションスイッチを～V にします。
- テストリードを本器の測定端子に接続します。
- 被測定回路にテストテストリードを接続し、表示を読みます。**MEASURE** キーや **LOCK** キーは使いません。

●抵抗測定

⚠危険

抵抗測定のファンクションに電圧を入力しないでください。本器を破損し、人身事故になります。電気事故を防ぐため、測定回路の電源を切ってから、測定してください。

測定準備

- ファンクションスイッチを Ω にします。
- テストリードを本器の測定端子に接続します。
- テストリードを被測定物に接続します。

キーを押しているときだけ測定する方法

□開始

- MEASURE** キーを押し表示値を読みます。

□終了

- MEASURE** キーから指を離すと測定が終了します。自動的に表示値がホールドされます。

キーを押していなくても測定をする方法（連続測定）

□開始

- LOCK** キーを 2 秒以上押します。表示部に **MEAS. LOCK** が表示されます。この場合、**LOCK** キーや **MEASURE** キーを押していなくても測定を続けます。
- 表示値を読みます。

□終了（**MEAS. LOCK** 点灯時の終了方法）

- LOCK** (STOP) キーか **MEASURE** キーを押すと測定が終了します。自動的に表示値がホールドされます。

ゼロアジャスト機能

ゼロアジャストはテストリードやヒューズの抵抗を記憶し、測定値から自動的に差し引き、被測定物に抵抗のみを表示する機能です。

- ファンクションスイッチを Ω にします。
- テストリードを本器の測定端子に接続します。
- テストリードの先端の金具を短絡させます。
- MEASURE** キーを押すか **LOCK** キーを 2 秒以上押し測定状態にします。
- 0ΩADJ キーを押すと、**0Ω ADJ** が点灯し、0.00 Ω を表示します。

- テストリードを被測定物に接続します。
- 表示値を読みます。

注記

- 表示値が 3 Ω 以下のとき、ゼロアジャストが可能です。表示値が 3 Ω を超えた状態で **0ΩADJ** キーを押すと、Err.1 を表示します。
- 抵抗測定では、テストリードを短絡すると測定電流が 200 mA 以上流れ、電池の消費電流が大きくなります。ゼロアジャストは短時間でを行い、ゼロアジャスト後はテストリードの短絡を解除してください。
- テストリードを短絡させて測定しても **OF** を表示する場合は、テストリードやヒューズの断線が考えられます。

●コンパレータ機能（比較判定機能）

絶縁抵抗測定と抵抗測定の場合、基準値を選択し、その基準値と測定値を比較し PASS、FAIL を表示し、ブザーを鳴らすことができます。

コンパレータを使用する方法

- ファンクションスイッチを 50 V、125 V、250 V、500 V、Ω のいずれかの位置にします。
- COMP** キーを押すと **COMP** マーク、**REF** マーク、基準値、ブザーが鳴る条件（**PASS** か **FAIL**）が表示され、基準値設定画面になります。**COMP** キーを押すたびに基準値が変わっていくので、使用したい基準値を表示させます。**0ΩADJ** キーを押すと、**PASS** **FAIL** が切り替わり、どの判定でブザーが鳴るかを選択できます。例えば、**FAIL** を表示させると判定結果が **FAIL** のときブザーが鳴ります。
- MEASURE** キーか **LOCK** キーを押し測定すると、**REF** マークと基準値が消え測定値の表示画面に替わり、測定値と基準値の比較判定を行います。

判定結果表示

絶縁抵抗測定：測定値<基準値のとき **FAIL** を表示します。測定値≥基準値のとき **PASS** を表示します。

抵抗測定：測定値>基準値のとき **FAIL** を表示します。

測定値≤基準値のとき **PASS** を表示します。

基準値は下表の既定値の中から選択できます。

ファンクション	選択できる既定の基準値
50 V/ 125 V	0.1/0.2/0.4/0.5/1/2/3/5/10/20/30/50/100 /200　単位 [MΩ]
250 V/ 500 V	0.2/0.4/0.5/1/2/3/5/10/20/30/50/100/200 /500/1000/2000　単位 [MΩ]
Ω	0.5/1/2/3/4/5/6/10/20/50/100/200/1 k　単位 [Ω]

例えばファンクションスイッチが 250 V の場合、**COMP** キーを押すたびに 0.2 MΩ → 0.4 MΩ →略→ 2000 MΩ → 0.2 MΩ →・・・と基準値表示が変化します。

注記

- 2. の基準値設定画面の状態で 2 秒間放置すると、**REF** マークと基準値と **PASS** か **FAIL** が消え元の画面に戻りますが、**COMP** マークは点灯し続けコンパレータ機能は有効になります。
- コンパレータ機能を有効な状態にしてから電源を OFF にすると、次に電源を ON にしたときは自動的にコンパレータ機能が有効な状態になります。基準値も電源を OFF にする前の値に設定されます。

コンパレータを使用しない場合

コンパレータを使用しない場合は **COMP** キーを 2 秒以上押してください。**COMP** マークが消え、コンパレータ機能は動作しなくなります。

●オートパワーセーブ（省電力機能）

最終操作から約 10 分後に自動的にパワーセーブ状態になり、表示がすべて消えます。電源を入れると、自動的にオートパワーセーブ機能が有効になります。（**APS** 点灯）

パワーセーブ状態からの復帰

ファンクションスイッチを 1 度 OFF にしてから元の位置に戻してください。

オートパワーセーブ機能の解除

LIGHT キーを押しながらファンクションスイッチを回し、電源を ON にしてください。

●オプションについて

□ L9787-91 ブレーカピン

（ピン長さ 70 mm　先端から 48 mm は φ2.5 mm、それ以外は φ3.8 mm）
L9787 のテストリードの先端に取り付けてお使いください。テストリードの先端部分が短くて使用できないときに先端部の延長ができます。

□ 9804-02 マグネットアダプタ

（φ11 mm、標準対応ネジ：M6 ナベネジ）

磁力によってネジの丸い頭にテストリードを接続するときに使用します。丸いネジの頭と最適な接触を保持できるように、先端は凹面形状になっています。L9787 の EARTH 側リードの先端に付けて使用します。

□ L9787 テストリード（1.2 m）